

コロナスの卵わくわくサイエンス事業 「大仙市中中学生首都圏大学・総合研究所派遣」

12月25日(火)
26日(水)

【訪問先・研修内容】

- 1日目…産業技術総合研究所臨海副都心センター
 - ・施設見学
 - ・アイミュレットの作成体験
- 2日目…千葉大学医学部
 - ・細菌についての講義
 - ・特殊顕微鏡の操作や細菌観察
 - ・ディスカッション

夏の派遣〔中学生12名：8月2、3日(木、金)日本科学未来館、理化学研究所基幹研究所〕に引き続き、中学生6名を産業技術総合研究所臨海副都心センター(略称：産総研)と千葉大学医学部へ派遣しました。今回は、大曲中(2名)、大曲西中(以下各1名)、大曲南中、平和



産総研で開発したヒューマノイドロボット

中、西仙北中からの派遣でした。来年度は、今回派遣のなかった6校から派遣する予定です。

参加生徒の中には、科学雑誌「ニュートン」の特集号「宇宙論」を持参していた生徒もあり、意気込みが伝わってきました。

産業技術総合研究所臨海副都心センターのデジタルヒューマン工学センター見学では、私たちの暮らしに密接に関わっている研究と開発が行われていることを学びました。

プロゴルファー石川遼選手のゴルフシューズがここで開発されているということを知り、中学生は感動していました。足の裏にセンサーをつけたシューズを石川選手に実際に履いてもらい、体重のかり具合からスパイクのピンの位置を決めたそうです。テレビ番組「世界一受けたい授業」に出演した持丸センター長の説明も、中学生にはとても分かりやすかったようです。

また、光の信号を音に変えるアイミュレットの作成では、使い慣れないはんだごてに苦戦しながらも完成させ、互いに出来映えを確かめ合っていました。

千葉大学医学部では、野田公俊(のだまさとし)教授(千葉大学大学院医学研究院副医学研究院長、日本細菌学会前理事長)の講義を聴講し、細菌は身近にあり、悪さをするだけではないということを知りました。細菌がいなければできない食品や薬もたくさんあり、私たちは細菌と共存しているということを知りました。よく知られている細菌「O-157」については、感染を防ぐためには「O-157」を反対から読んで「75℃、1分の加熱でOK」を実行すればいいなど、中学生にも分かりやすいお話でした。



高性能の顕微鏡で細菌観察に挑戦

午後は、特殊顕微鏡を使って、細菌の観察をしました。細菌を染色するところから、オイルを使って1000倍に拡大して観察するなど、経験したことのない操作のために苦労していましたが、

ブドウ球菌が視野に現れると、「おっ」と歓声が上がりました。一緒に学んでいた千葉市の中学生とも交流しながら観察に夢中になっていました。

千葉大学では、研修終了後、野田教授から一人一人に修了証が手渡されました。

派遣された生徒一人一人の報告書は、本市教育委員会のホームページにも掲載しておりますので、ご覧になってください。〔ちなみに、過日、野田先生は細菌学会最高峰の「浅川賞」を受賞されました。〕



自作のアイミュレットで通信し合う

大仙市立中学校生徒海外派遣事業 オーストラリア(ケアンズ方面)滞在～報告会・解団式

主な日程

1日	1/3(木)	【出発】大仙市役所～仙台空港…グアム空港
2日	1/4(金)	【到着】ケアンズ空港～マンガリフォールズ ○ファームステイ
3日	1/5(土)	○ファームステイ
4日	1/6(日)	
5日	1/7(月)	○オージーキッズとの交流
6日	1/8(火)	グリーン島、グレートバリアリーフ ○自然体験、マリンスポーツ等
7日	1/9(水)	ケアンズ ○自然環境学習(植物園) ○キャリア学習(職場訪問)
8日	1/10(木)	キュランダ ○アポリジニ文化研修等
9日	1/11(金)	【出発】ケアンズ空港…グアム空港…仙台空港～ 【到着】大仙市大曲交流センター

今年度も、新年早々の1月3日(木)から11日(金)まで、市内の中学生20名を、オーストラリアへ派遣しました。今年度は、男子が例年よりも多い5名となり、今後も増えることを期待しているところです。

派遣に当たっては、10月から事前学習会を3回実施しており、自主研究テーマの絞り込みやその追究方法、英会話レッスン、オーストラリアの文化等の研修を積み重ね、チームワークも固めて臨みました。

自主研究テーマには、「環境」「食料自給率」「健康のためのライフスタイル」「世界遺産保護」「観光」「優しさ」「食文化」「ゴミ」「節水」等のキーワードが並んでおり、一人一人のオーストラリアへの関心と研修意欲の高さをうかがうことができます。

オーストラリア到着後の、初めの体験は、ドキドキのファームステイです。初対面のホストファミリーと3泊4日間、英語で生活します。ファミリーの優しさに包まれて、農場作業など様々な体験を経て、自分の英語が通じたという自信をもち、コミュニケーションが深められたという感動を味わってきたようです。また、映像などでしか知らなかった雄大な自然や伝統的な文化などを肌で感じた感動は、一生の思い出となったようです。

報告会・解団式 2月27日(水) 会場：仙北ふれあい文化センター 15:00～

諸般の事情により、当初予定していた2月13日を変更して実施いたしました。変更に際しては、保護者やご家族の皆様及び各学校に大変ご迷惑をおかけいたしました。

解団式には、保護者をはじめ学校関係者約50名が参加し、たくましく帰ってきた派遣生の様子を見守ってくれました。

生徒を代表して、木村宣貴さん(大曲中2年)が「出発前は不安だったが、毎日が刺激的な体験だった」、堀江知夏さん(協和中2年)が「ホストファミリーに積極的に話しかけるようになった自分の変化に驚いた」とそれぞれ挨拶しました。

報告会では、四つのグループに分かれ、一人一人の自主研究テーマについて、現地での調査等をまとめたレポートを報告し合い、質疑応答により研修を深め合っていました。コンピュータによるプレゼンテーションや自信をもった説明など、大きな成長を感じ取ることができました。

なお、派遣された生徒一人一人の報告書は、本市教育委員会のホームページにも掲載しておりますので、ご覧になってください。



ホストファミリーと楽しく食事をする高橋日輪(豊成中)さん



オージーキッズとの交流(いかだ作り競争の場面)



オージーキッズとの交流(日本文化紹介の場面)



プレゼンテーション資料を活用した分かりやすい発表



三浦教育長のお話を聞く派遣生たち



互いの発表から学び合い、自分の研究を深める

三浦教育長 in 沖縄県南城市

1月23日(水)、三浦憲一教育長が、沖縄県南城市教育委員会主催の「講演会」講師として招かれました。桜も開花した早春の南国(気温18℃)は、黄砂がPM2.5か何らかの影響により、美ら海(ちゅらうみ)もやや霞んでいました。色鮮やかな花々と穂を垂れたスキの混在や、刈り取り後のサトウキビ畑の様子が、新鮮な光景でした。



ホテルから見下ろす景色(左:霞んだ海)と富士山(右)



玉城幼稚園にて、園長先生たちと(左)、子どもたち(右)

当日、講演会開始までの時間、南城市教育委員会高嶺朝勇教育長の計らいにより、玉城(たまぐすく)幼稚園、玉城小学校、知念中学校を訪問させていただきました。それぞれの施設・設備等は理想的に整備され、素晴らしい環境の下、子どもたちが元気いっぱい活動し、学んでおりました。各学校も、それぞれの環境を生かしながら、学習指導ではめあてを明確にし、計画的な板書等によりノート指導にも力を入れ、子どもたちの思考を促しながら丁寧な指導が展開されておりました。日頃見慣れた板書に近いものを感じました。



玉城小学校にて、学び合う子どもたち

その後、偉大な世界遺産「斎場御嶽(せーふあうたき)」、平和祈念公園「平和の礎(いしじ)」、「ひめゆりの塔」にまでご案内いただき、歴史と伝統を重んじ、平和を希求する沖縄の皆様の深く尊い心にも触れさせていただきました。思わず、言葉を失い手を合わせました。



知念中学校にて、理科の実験中の生徒たち

また、この南城市との交流の立役者である神里美智子教諭の元気な姿にも接することができ、親しく思い出話等に花を咲かせることができました。

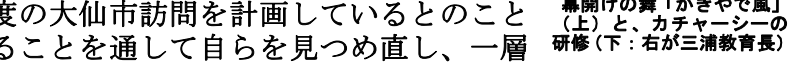
講演会には、南城市内の幼稚園、小・中学校の管理職のほかに、沖縄県教育委員会及び近隣市町村教育委員会関係者など約80名が参加されました。講演後、かつて本市を訪問された方や糸満市教育委員会の方、そして、神里先生からも学校の研究体制、教師の話し方、学習状況調査の生かし方などについて相継いで質問が出され、会場は熱気であふれていました。



三浦教育長の講演(上)と質問をする神里先生(下)

講演会後の懇親会には、糸満市教育委員会上原武教育長も出席され、既に、平成25年度の大仙市での「学びの体験事業」の予算(〇百万円)を確保したと、壇上で挨拶されました。豪快な方で、ステージでは、本市を訪問した際に沖縄の舞踊を披露してくださった大城寿乃教諭が、師匠であるお母様と共に、格式の高い伝統舞踊などを舞ってくださいました。大曲中学校の全国3連覇を成し遂げたマーチング「琉球絵巻」の映像がスクリーンに映し出されると、会場は一気に盛り上がり、三浦教育長もいつしかステージに上げられ、舞踊の師匠の手ほどきで*カチャーシーを踊ってしまいました。

南城市教育委員会も、平成25年度の大仙市訪問を計画しているとのことでした。大仙市は、外の目で見られることを通して自らを見つめ直し、一層気を引き締めなくてはとの思いを新たにしました。(随行は千田教育指導課長でした。)



幕開けの舞「かぎやで風」(上)と、カチャーシーの研修(下:右が三浦教育長)

*【カチャーシー】掻き混ぜるという意味で、沖縄の手踊り、または三線の早弾きの曲もいう。祭りや結婚式など祝い事の最後に、参加者全員でカチャーシーを踊り、皆で喜びを分かち合う。

大仙市PTA連合会第12回研修会〔平成25年2月21日(木)〕



講師 関雅幸氏

大曲交流センターにおいて、約80名の参加により研修会が行われました。齊藤亘会長、三浦憲一教育長の挨拶などに引き続き、児童生徒の学習や体力の状況及び保護者、地域、学校の連携の充実についての研修に入りました。児童生徒の学習や体力の状況については、須田百合子教育研究所長から、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査、及び新体力テストの結果から、いずれもおおむね良好な状況にあることが報告されました。続いて、協和小学校支援地域本部地域コーディネーターの関雅幸氏から、文部科学省で行われた学校支援コーディネーター意見交換会での状況を講話していただきました。全国的には学習支援が求められている傾向があるが、教室内の学びを実社会に直結させる工夫が大切で、大人との接点をたくさんもった方が子どものためになるので、そういう視点で学校支援をしたいと話されました。

なお、詳細は「語ろう!かどろ! 共に創る-大仙市PTA連合会-考え聞く」会報№12(平成25年3月15日)をご覧ください。

国語セミナー in 秋田大仙〔平成25年2月23日(土)〕

～ 対話力を育成する「話すこと・聞くこと」の授業の在り方とは ～

主催 公益財団法人中央研究所 後援 秋田県教育委員会、青森県教育委員会、岩手県教育委員会
共催 東京教育研究所 大仙市教育委員会、横手市教育委員会、湯沢市教育委員会

大曲交流センターにおいて開催された本セミナーには、青森県、岩手県、宮城県、秋田県の教員及び教育関係者約90名が参加しました。内容が大変濃密で、あっという間の4時間でした。

基調提案では、千田教育指導課長から、全国学力・学習状況調査の本市の結果を踏まえた国語科の実践課題や対策が提案されました。

実践発表では、南外小学校の小西肇校長が、市内の国語の取組状況として、主に「話すこと・聞くこと」の領域や対話力育成に向けた取組を紹介しました。他県からの参加者からは、大変参考になったとの感想がありました。

シンポジウムでは、福田指導主事から「新たな考え方を創出するための対話」の視点などについて、藤井教授からは「話し合うための基礎としての対話力の育成」などについて提案があり、二人の掛け合いも魅力的でした。

小森教授は、学習指導要領の改訂の背景から「言語活動の充実」を図ることの意義について、そして、身近な教材を例に取り、確かな教材研究が授業づくりの原点であることを、会場の一人一人と対話するかのごとく、分かりやすく教えてくださいました。小西校長先生、深谷先生、大変お疲れ様でした。

- 【内容】 13:00～17:00
総合進行: 深谷 隆 大仙市立高梨小学校教諭
- 【I部 基調提案】
千田 寿彦 大仙市教育指導課長
- 【II部 実践報告】
小西 肇 大仙市立南外小学校長
- 【III部 シンポジウム】
コーディネーター
成田 雅樹 秋田大学教授
シンポジスト
藤井 知弘 岩手大学教授
福田 真実 青森県総合教育センター指導主事
小西 肇
千田 寿彦
- 【総括講演】
講師 小森 茂 青山学院大学教授
(元文部省教科調査官)
「対話力を育成する国語科授業の在り方とは」
-なぜ「言語活動の充実」なのか-

大仙市教育委員会 H25.3.18現在		都道府県別一覽表												
年度	視察団体数	視察者数	視察都道府県数	未視察都道府県数										
平成22-25年度	148	1223	31	15	北海道									
平成25年度	2	未定	1	45	秋田									
平成24年度	61	574	22	24	青森									
平成23年度	47	322	24	22	山形									
平成22年度	38	327	21	25	岩手									
□ 視察がない都道府県					石川									
					富山									
					新潟									
					福井									
					長野									
					群馬									
					栃木									
					山梨									
					福島									
					茨城									
					埼玉									
					東京									
					千葉									
					神奈川									
					その他									
					個人研究・学生・中国・韓国・JICAなど									